

育ちの芽



副園長 奥村 綾

～運動会を終えて～

今年度も、コロナ禍での運動会という事で、さまざまな制限のある中、保護者の皆様のご理解・ご協力のもと、無事に運動会を開催することができました。

10月とは思えない暑さでしたが、子ども達は、かけっこやリズム等、保護者の皆さんの前で表現できた喜びや、それぞれが思い思いの充実感を味わうことができたと思います。大変暑い中、最後まで温かい拍手、応援をありがとうございました。

運動会を終えてからも、園庭では、玉入れやパラバルーンを楽しんだり、年長さんのポンポンを持って、みんなで踊ったりして、運動会ごっこを楽しんでいます。自分たちでチームを決め、リレーを行う姿もあります。

体操の曲が流れると、朝礼台の上の取り合いが始まります。そんな時は、朝礼台の横にビールケースをいくつか並べ、たくさんのちびっこ先生が台の上で見本を見せてくれます。まだまだ、運動会の余韻を味わっている子ども達です。

育ちの芽 21号でもお伝えしましたが、幼稚園では、卒園までの子どもの成長を考える視点と目安として、幼稚園教育要領の中の【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『10の姿』】を手掛かりに、保育を展開しています。

運動会に向けての取り組みは、大きな総合的な学びに繋がり、この『10の姿』全てにおいて『育ち』や『学び』が見られます。

例えば、やる気を持って競技や演技に楽しく取り組んだり、体を動かすことを楽しむことで『健康な心と体』が育ち、競技に挑戦し、あきらめずにやり遂げることで、達成感を味わい、自信を持つことで、『自立心』に繋がります。

自分の感情や意思を表現しながらみんなで作戦を考えたり、相談したり、力を合わせたりすることで、目的が実現し、喜びを味わう中で『協同性』が育まれます。

決まりやルールを守り、自分の気持ちを調整し、友達と演技や競技に取り組むことで

『道徳性・規範意識』が芽生えます。

小学校の運動場を借りて運動会を行うことで『社会生活との関わり』を知ったり、自分なりに考えて、ダンスのお面を制作したり、開会式の入場の仕方を考えたりすることで、『思考力の芽生え』に繋がります。

毎日の天気や雲の動きに関心を持つ『自然との関わり』や、開会式・閉会式で言う挨拶の言葉を考えたり、書いたりすることで、『文字などへの関心・感覚』を養います。

意見を言ったり、友達と声を掛け合ったり、応援したりすることで『言葉による伝え合い』が身につく、大勢の人の前で表現することで『豊かな感性と表現』を楽しみます。

このように、運動会という行事ひとつとっても、当日だけではなく、子どもの『育ち』や『学び』は総合的に育まれます。その過程や継続の大切さを、今後も保護者の皆さんに発信し、共有していければと思います。

～いちにち先生へのご参加ありがとうございました～

昨年度は、残念ながら実施できなかったいちにち先生。今年度もコロナ禍は続き、実施するかどうかの判断が難しい状況ではありましたが、いちにち先生を通して、保護者の皆さんに、日頃の子どもの遊びの様子をご覧いただきたい、そしてその姿から『育ち』『学び』を共有したいという思いで、感染対策に留意しながら実施しました。年少組約3割、年中・年長組約4割の方にご参加いただきました。

いちにち先生に参加された皆さんには、感想文を提出していただいています。数時間保育に入った中で、子どもの成長した姿に感動したことや、先生の声掛けに感心したこと、また、先生に対する労いの言葉や、いちにち先生に参加できた感謝の言葉等、感じ取った素直な気持ちを表現されていて、読ませていただいて大変嬉しい気持ちになりました。ありがとうございました。

その中に、【遊びの中の子どもの『育ち』『学び』について気づかれたエピソード】を書いていただいています。

参加されたすべての方が、客観的に子ども達の姿を見ることで感じたことや、子ども達の遊ぶ姿から、『育ち』『学び』に気づき、いろいろなエピソードを書いてくださいました。いちにち先生に参加したかったけど、残念ながら参加できなかった方々とも共有できればと思いますので、一部を、育ちの芽号外としてご紹介させていただきます。